

岸田首相就任直後に 1000 万円…日本眼科医連盟の献金と懇親 「議連の力を借りると…」関係者が語る

東京新聞 2023 年 7 月 31 日 配信

2020 年 12 月夜、東京・東麻布の高級中華料理店。眼科医でつくる「日本眼科医会」の政治団体「日本眼科医連盟」が懇親会を開いた。同連盟の政治資金収支報告書には「田村議員等との懇親会飲食代」として約 28 万円の支出が記されている。「田村」とは当時、自身 2 度目の厚生労働相を務めていた田村憲久(58)。自民党の大物厚労族だ。店のホームページには現在、1 万数 1000 円～4 万数 1000 円の夜のコース料理が並んでいる。懇親会が開かれたのは新型コロナウイルスの流行「第 3 波」の最中で、都内の飲食店には営業時間の短縮要請が出ていた。政府対策分科会は同年 10 月、感染リスクが高まる「五つの場面」として「飲酒を伴う懇親会等」を真っ先に挙げ、避けるように促していた。なぜそのような時期に国会議員との懇親会を開いたのか。同連盟に内容を質問すると、「個別の会議や会合は政治活動の自由の観点から、公表しているもの以外は回答していない。コロナ禍の飲食は、国や地方公共団体のガイドラインなどに従って適切に対応している」と回答があった。田村事務所に問い合わせると、「眼科医の皆さまとの懇親会に参加した記録がある」とのこと。そこで今年 3 月、国会内で田村に聞くと、「確か店の入り口で、眼科医会の 3 人くらいの方と話をし、ごめんなさいと言って帰った。忙しくて会食している暇がなかった。眼科医会か議連だったかは分からないけど、その打ち合わせ会だったのでは。人数は 10 人もいなかったと思う」と話した。

◆「政治家には会食が役に立つ」 献金額も膨張 議連とは 2015 年に田村と自民党幹事長代理の井上信治(53)を中心に立ち上げた眼科医療政策推進議員連盟。眼科医会の元幹部が話す。「厚労省に陳情する時、国会議員と一緒にいく方が向こうも話をよく聞いてくれる。陳情は根拠となるデータを積み重ねた上で、議連の力を借りると、かなり高い確率でうまくいく」 2020 年の日本眼科医連盟の収支報告書には、12 月だけでなく 2 月 28 日にも「議連幹部との懇談会飲食代」として約 60 万円の支払いがある。懇談会の日付は分からないが、支払先は東京・赤坂の高級中華料理店になっていた。元幹部は「政治家は会食によく来てくれる。政治家には会食が役に立つけど、官僚には役に立つと思わないから、あまりお願いしたことはない」と語った。同連盟は毎年、議連幹部との懇親会や個別の会合を開いて関係を強める一方、2021 年は政治献金も大幅に増やした。収支報告書を 2013 年までさかのぼると、総額が最も多かったのは 2020 年の約 1300 万円。それが翌 2021 年は約 3500 万円と 2.7 倍に膨らんだ。

日本眼科医連盟 1 万 4500 人余の眼科医でつくる公益社団法人「日本眼科医会」の政治団体。眼科医療を推進するための政治活動を行う。眼科医会の会長がトップの執行委員長を兼ねる。連盟の会員は約 3500 人。2021 年は会員から約 2900 万円の会費や前年からの繰り越しなど 1 億 1230 万円の総収入があった。



緊急事態宣言の発令中は、金曜日夜の東京・新橋でも人通りは少なかった＝2021 年 1 月

コロナ禍での日本眼科医連盟をめぐる動き	2020年 2月27日	安倍晋三首相が全国の小中学校と高校などに臨時休校を要請する考えを表明(休校は3月2日～5月31日)
	28日	日本眼科医連盟が「議連幹部との懇談会飲食代」として東京・赤坂の中華料理店に60万797円を支払い
	3月9日	政府の専門家会議が集団感染が起きる3条件(後の「3密」)を発表
	4月7日	1回目の緊急事態宣言(～5月25日)
	4月11日	東京都が事業者への休業・時短要請(～6月18日)
	8月3日	都が事業者への時短要請(～9月15日)
	10月23日	政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会が「感染リスクが高まる5つの場面」を発表
	11月28日	都が事業者への時短要請(～4月24日)
	12月21日	日本眼科医連盟が「田村議員等との懇親会飲食代」として東京・東麻布の中華料理店に27万9550円を支払い
	21年 1月8日	2回目の緊急事態宣言(～3月21日)

◆岸田氏に対して2013年以降では初の献金 岸田文雄政権誕生から8日後の2021年10月12日、眼科医会会長で、同連盟の執行委員長も兼任する白根雅子らが首相官邸に岸田を表敬訪問した。収支報告書を見ると、同連盟は訪問の翌日、岸田の資金管理団体「新政治経済研究会」に計1000万円の大口献金を行っていた。岸田が衆院を解散する前日で、同連盟が2013年以降、岸田側に献金したのは、この時が初めてだった。なぜ初めて、しかも1000万円も出したのか。同連盟に取材を申し込んだが、「個別の経緯など収支報告書の決定の記載事項以外の事実は、法令の趣旨(政治活動の自由)に鑑み回答していない」とのことで事情は分からなかった。岸田事務所は「政治資金は法令に従い適正に処理し、その収支を報告している」と答えた。＝文中敬称略



治療や入院など医療行為の公定価格で、2年に1度改定される診療報酬。この30年間、民間給与が伸び悩む中で上がり続け、保険料や税、病院窓口での支払いなど国民負担も増え続ける。連載の番外編では、国会議員連盟を舞台にした医療の値段を巡る攻防を描く。(杉谷剛、中沢誠、奥村圭吾)

医療の値段 環流する票とカネ 番外編 ①

「先生方のお力添えの賜物」 献金が激増…
そして3歳児健診の視力検査に国の補助金

東京新聞 2023年8月1日 配信

2021年に政治献金の総額を前年の倍以上に増やした「日本眼科医連盟」。最高額は首相の岸田文雄と自民党幹事長代理・井上信治の側への献金で、各計1000万円だった。次いで元厚生労働相・田村憲久側への計500万円が続く。3人で献金総額約3500万円の7割を占める集中ぶりだ。同連盟が当時、実現に力を入れていたのが、3歳児健診の視力検査に関する国の助成事業。日本眼科医会会長で、同連盟執行委員長も兼任する白根雅子が「眼科医連盟ニュース」で経過を報告している。眼科医会は2021年5月、元総務相・寺田稔の「指導のもと」、要望書を当時の財務相・麻生太郎や財務省に提出。7月には最終要望書を厚労相だった田村に渡し、「予算確保に向けた準備が整った」。そうした活動の末、2022年度予算から補助金が盛り込まれた。区市町村から申請があれば、国が弱視の発見に有用な屈折検査機器の購入費用の半額を出すことになり、購入する自治体が広がった。

屈折検査 子どもの目の機能は3歳ごろまでに発達し、6～8歳ごろまでにほぼ完成するが、3歳児健診の際の1次視力検査は家庭で行うため、弱視や目の異常が見逃されることがある。精度の高い屈折検査機器などを導入して総合的に診察することが、早期治療の開始に効果的となる。

◆献金を受けた議員は「えー、そんなに増えているの」「国の予算がついたことは小児眼科医療の歴史の一つの節目になったと思います。(小児眼科の)エキスパートの先生方のご努力と、国政において重要な



日本眼科医会の白根雅子会長(左端)らが岸田文雄首相を表敬訪問したことを伝える「眼科医連盟ニュース」。訪問の翌日、眼科医連盟は岸田首相側に1000万円を献金していた

役目をお務めの議員の先生方のお力添えの賜物たまもの」。白根はそう記している。眼科医会の元幹部は「この検査を国が認めたことはわれわれにも非常に大きい」と眼科診療の進展と広がり期待する。

同連盟の政治資金収支報告書を2013年までさかのぼると、田村の側への献金はパーティー券を含めて毎年10万~100万円(2013年はなし)。それが2021年は500万円と大幅にアップした。国会内で田村に聞くと、「えー、そんなに増えているの。認識していないな」と驚いた様子だった。寺田の側には2017年に10万円あるだけだったが、2021年は100万円を献金した。寺田は事務所を通じて「選挙の陣中見舞いの趣旨と何うかがい、適法に資金処理した。団体要望の件とは関係ない」と回答した。同ニュースには、井上に関するこんな記事もある。「井上信治議員のご尽力で、消費者庁からカラコンの注意喚起のポスターが大臣会見で発表されました」。2021年9月、消費者相だった井上が記者会見で、カラコンコンタクトレンズを購入する際は眼障害の防止のため、眼科を受診するよう呼びかける消費者庁のポスターを紹介し、注意喚起したという内容だった。

◆「先生は眼科を分かっているの、頼みやすい」井上は実家が有数の眼科病院で、初当選から同連盟の支援を受ける。2013年以降の献金は2020年の500万円が最多だったが、2021年は1000万円に倍増した。取材を申し込むと、「政治資金は法令に従い適正に処理し、報告している。国会議員として様々な方々から政策要望等を頂いており、国民のために必要な事項はその実現にも努めている」と回答が届いた。同連盟は「個別の行為に対する謝礼の趣旨で寄付をしたことは一切ない」とした。眼科医会の元幹部が証言する。「井上先生は眼科を分かっているの、何かあると頼みやすい。診療報酬改定で『これはちょっと下げられたら困るな』という時も彼のところへ行く。改定前には議連にお願いし、厚労省を呼んで総会を開いてもらう」。議連とは田村が会長、井上が事務局長を務める党眼科医療政策推進議員連盟のことだ。「総会でわれわれが『この診療報酬を下げると国民が困ります』と言うと、田村先生らが『厚労省は眼科医会の先生とよく話し合って』という形で総会を終えてくれる。それで厚労省に話し合いに行くが、うまくいくことも、いかないこともある」「医療の値段」である診療報酬や個々の政策に影響力を持つ政権与党の有力者たち。医療費が献金となって還流する構図が浮かび上がる。(文中敬称略)